

Wakamono Innovation Network 2019 ～介護デジタルハッカソン in 横浜～ 優秀チームが決定

ソリューションの社会実装化に向けて引き続き伴走支援します！

介護デジタルハッカソン in 横浜（主催：Wakamono Innovation Network 2019 実行委員会／後援：横浜市政策局）は、介護分野でのイノベーション、STEM教育の展開、デザイン思考に基づく政策形成などに興味・関心のある**横浜薬科大学、情報科学専門学校、横浜リハビリテーション専門学校の学生が混成チームを作り、介護の様々な課題に挑んだ取組です。**

本ハッカソンは、先端技術を活用したオープンイノベーションを促進し、介護とICT双方の視点や知見を併せ持つ若い人材を育成することを目的としており、平成30年度に続き2回目の開催となりました（新型コロナウイルス感染症の影響で、令和元年10月から年度をまたいで開催）。

各チームのアイデア検討にあたっては、介護やICTの現場を熟知しているケアテック・オープン・ラボ横浜（※1）の全面バックアップがあり、より実用的なアイデア創出に向けて適切な助言をいただきました。また、データを安全に共有できる情報連携基盤（※2）が富士ソフト株式会社から提供され、アイデア具現化の可能性を大きく広げました。

今後も、ケアテック・オープン・ラボ横浜をはじめとした様々な主体が、学生たちをサポートし、本ハッカソンで生まれたソリューションの社会実装化を目指します。

※1 ケアテック・オープン・ラボ横浜とは

介護とICTを融合させ、それに伴うイノベーションを促すため、開かれた対話と実証実験の場を提供することを目的として、株式会社ウェルモ、株式会社ジェイアーク、株式会社ツクイ、富士ソフト株式会社と横浜市で構成されたプラットフォームです。

[HP] https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/seisaku/2018/0320_caretex.html

※2 介護デジタルハッカソン in 横浜に提供される情報連携基盤について

ケアテック・オープン・ラボ横浜の各介護事業者の介護情報を活用した情報連携基盤として、富士ソフト株式会社が構築したUXP（※）を使用した本ハッカソンのための環境です。

[富士ソフト株式会社のニュースリリース] <https://www.fsi.co.jp/company/news/20200722.html>

※UXP（Unified eXchange Platform）とは、エストニアの電子政府システムの連携基盤「X-Road」をエストニア以外の政府や組織へ提供するために発展・開発された、暗号化と相互認証の機能を持つピアツーピアのデータ交換を可能とする技術です。本技術により、コスト効率が高く、システムの自立性を維持したまま、データの完全性を損なうことなくセキュアなデータ交換が可能となります。

審査結果発表会について

審査結果発表会が、令和2年7月12日に横浜市役所市民協働推進センターにて開催され、高齢単身世代のQOL向上についてコミュニケーション型ぬいぐるみにより課題解決を図った第2班 Farfalla（ファルファアラ）の『Stand by you』が優秀チームに選ばれました。ケアテック・オープン・ラボ横浜の関係者の他、医療、福祉、市民活動等の専門家の方々からも、学生たちのアイデアに対して講評をいただきました。当日の様子は、下記URLでご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=WyGL9xIAUeg>

2班：Stand by you

■ 高齢単身世帯に向けたコミュニケーション型ぬいぐるみ

- 犬型のぬいぐるみがスケジュールを教えてくれたり、雑談（運勢など）の相手をする
 - 薬を飲む時間の通知や、飲んだかどうかの記録なども行う
 - 雑談の中で体調確認なども行い、場合によっては家族や病院に自動連絡

■ ポイント

- QOL向上（楽しさ）を手助けするという視点
- （服薬・トイレ・入浴など）**管理されている感を感じさせない**
- 薬を飲む時間の通知など実用的な価値と、雑談などの「遊び」がシームレスに同居
- 将来的にはUXPへの自動記録



裏面あり

参加者からのコメント

◆優秀チーム第2班 Farfalla (ファルファアラ)

- 自分たちで考えたアイデアについて、先生方や企業の方々にご相談したところ、様々なアドバイスを受けて、当初考えていなかった機能を付加することにした。様々な人の意見を聞くことは、製品開発にとっても大切なものだと感じた。
- 高齢者、介護者というユーザーの視点で課題に向き合えたことが、とても良い経験だった。

◆審査員

- 学生たちのアイデア検討の場に参加したが、回を重ねるごとに学生たちが成長していくのを感じた。学校の先生方やケアテック・オープン・ラボ横浜のみなさまには、引き続きお力添えを頂きたいと願っている。(横浜薬科大学 実務実習センター講師 田口 真穂様)
- 学生のみなさんのアイデアは満載で、人に役立つものを作りたいという情熱をもって取り組んでいたことが伝わった。ぜひアイデアを実現してもらいたい。高齢単身者への見守りは必要とされており、優秀チームに選ばれた『Stand by you』のぬいぐるみを利用したアイデアは高齢者に受け入れられやすく良いと思う。(竹山医院 病院長 大矢 美佐様)
- 自分たちがやりたいことではなく、誰かのために必要なことをという出発点で取り組んでいたことが素晴らしかった。異業種の人と協力して作り上げるという姿勢が大事。学生、行政、医療など様々な分野の人たちが力をあわせれば、良いものができる。(横山医院 在宅・緩和クリニック病院長／(一社)YOKOHAMA リビングラボサポートオフィスヘルスプロモーション部会長 横山 太郎様)

◆ケアテック・オープン・ラボ横浜

高齢者が社会の4分の1を占める人生100年時代を迎えるなか、高齢者の方々の生活をいかに支えていくのかという問題について、介護や医療の分野だけでなく、様々な分野の方々が一緒になってアイデアを考える姿勢が大事であり、その意味で介護ハッカソンの取組は非常に意味がある。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今年2月に予定していた現場での実証ができなかったのが残念だったが、今後さらにブラッシュアップし、現場に入って様々な立場の方々の意見を聞きながら、状況に応じて課題設定を変えるなどの試行錯誤を重ねて、多くの人々に使われるような商品を作り上げてほしい。実装化に向けて開発を進めていくなかで、ケアテック・オープン・ラボ横浜のメンバーは、現場の知見や最新技術について相談に乗りながら、協力を続ける。

<参加チーム一覧>

チーム名	テーマ	チーム構成		
		情報科学	横浜リハ	薬科大
1 メルティホーム	【メルティホーム】ガーデニングアプリを通じて認知予防につなげたい	3	2	1
2 Farfalla	【Stand by you】ペットコミュニケーションアプリがスケジュール管理等を行い、高齢単身世代に向けたQOLの向上につなげる	2	3	2
3 トレイスdaifuku	【おしゃれアプリ】おしゃれをしたい患者さんが在宅介護スタッフ向け自分で選べるコーディネートサイト又はアプリ	2	2	1
4 TEAM4	【高齢者転倒防止アプリ】投薬、摂取食事等のデータによる高齢者のふらつき、転倒の防止	1	2	1
5 carefor	【carefor】患者の情報を一目で把握、介護現場の負担を減らせる施設内記録アプリ	2	2	0
6 One	【服薬王将】高齢者に対して、楽しく注意喚起を行うことで薬を服用することに対する否定的な気持ちを減らしたい	2	2	0
7 Qualia	【Qualia】在宅介護者と訪問介護者間でバイタルデータを共有し、データの傾向を把握しやすくする	4	1	0
		35	16	5

今後の展開 ～実装化に向けて～

今回、優秀チームに選ばれた第2班 Farfalla (ファルファアラ) の『Stand by you』や、その他チームによる介護分野における課題解決のアイデアを具現化するため、実装に向けて、引き続きケアテック・オープン・ラボ横浜をはじめとした様々な主体が伴走支援を継続します。

【参考】介護デジタルハッカソン in 横浜 2018 優秀チーム『らっくる』について

介護デジタルハッカソン in 横浜 2018 で優秀チームに選ばれた「バリア回避ルート案内アプリ『らっくる』」は、企業や横浜市をサポートのもと、車いすユーザーの方々の声も聴きながらアプリの仕様改善を続け、いよいよ社会実装化のフェーズに入ろうとしています。



お問合せ先

政策局共創推進課長 小池 道子 Tel 045-671-4394